

非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8 TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689 会報込年会費 3000円

2015年8月20日 月刊第205号 発行／非核の政府を求める石川の会

- 非核五項目
- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
 - ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
 - ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
 - ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
 - ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1面	2015年原水禁世界大会の報告	川本浩平	6面	会員エッセイ	志田弘子	7面	「独標」：東日本大震災	藤村和昌
2面	同上	藤田元春		「梅原司平と被爆ピアノコンサート」		8面	被爆者が描いた体験画展	中田喜重
3面	同上	村田美恵子	7面	非核・平和のひろば			絵手紙コーナー	矢敷 節
4面～6面	宮本憲一講演要旨「地方自治の危機と再生」			白山市の「長崎 戦争・原爆被災展」			非核平和・行事予定	



被爆70年ヒロシマデー集会

8月6日 広島県立体育館グリーンアリーナ

被爆70年

非核平和運動の転換点に

川本 浩平

八月四日から六日まで原水爆禁止世界大会・広島が開催され参加してきました。原爆が投下されてから七〇年を迎える広島。この町のあちらこちらで、又市内電車の中でプロ野球広島東洋カープの「ピースナイター」宣伝ポスターが最初に目につきました。

広島東洋カープと八月六日

球団は二〇一〇年まで八月六日の

この日に試合をすることを避けていました。ホームの旧広島市民球場は原爆ドームの道を挟んで向かい側であり、悲しみと祈りに包まれ、又灯籠流しが行われる夜に「鳴り物と歓声」のゲームを自粛してきたそうです。

四年前から、被爆者の思いに寄り添い選手とファンが一緒になって平和と核兵器廃絶をアピールした「ピースナイター」を市民は楽しんでいました。被爆七〇年・今年のピースナイター

は、選手・コーチ・監督全員が「86」の背番号、胸には「PEACE」、背中には「HIROSHIMA」のロゴマーク、帽子は白鳩を描き、左袖には原爆犠牲者数二九万二二三二五人（昨年八月六日現在）の数字入りのワッペン（当日のゲームは残念ながら負けました）

旧広島市民球場のこだわり

球場は原爆ドームの近くにあって、ことを述べましたが、原爆慰霊碑から貞子の像、原爆ドーム、旧広島市民球

花鳥風月

政財界の人たちのヨーロッパ・オペラ鑑賞ツアーの通訳アルバイトをされた方の話によると、同席した食事の席で某・大手鉄道会社の社長さん

（当時）が大きな声で、「そろそろどこかで戦争でも起きてくれないことには、日本経済も立ち行かなくなつてきますなあ。さすがに日本の国土でドンパチやられたのではたまらないから、私はインドあたりで戦争が起きてくれれば、わが国としては一番有り難い展開になると思つていますよ」▼FBでこれを読み連想したのは、ポンパドゥール公爵夫人（ルイー五世の愛妾）の「われらのあとは大洪水」というフランスの動乱を予見した言葉だった。いま、わが国会では、討論するほどその反国民的な本性があらわになる「戦争法案」の強行採決で、立憲主義まで否定して独裁国家を画策する自公勢力▼一方、国会議事堂に集まる若い人たちに向けて、八六歳・京都男性は「若かったわれわれが、生まれ変わってデモ隊となって立ち並んでいるように感じました」「学生さんたちに心から感謝する。今のあなた方のようにこそ、我々は生きていたかったのだ」と、かつて「特攻」に逝きし友の無念を、七〇年を経たこの夏に述懐する。（一）

場（ホームベース）と一本のライン上にあり、復興と平和への願いが託されたこだわりの球場であること、そのため旧市民球場は一塁手が西陽の直射を避けるため日没後、午後七時試合開始とされました。

原水爆禁止世界大会・広島

インドネシア国連代表部

ムハマド・アンシヨルさんは

「広島・長崎の経験は核爆発の悲惨さと、その人道的影響が非常に大きいことから、インドネシア政府が核兵器全面禁止・廃絶を支持する理由」とい

い、「二〇一五年NPT再検討会議は、

明らかに大多数の国が歴史の正しい側にいる。参加国の八割の一五九か国

が賛同し再確認した。それはいかなる

状況でも再び使用されてはならない

大多数の確固とした宣言で、これは核

保有国に極めて大きな圧力になって

いる。この圧力は市民社会が声を上げ

れば急速に強くなり、日本の要請代表

団が国連を訪問したことはとても心

強い励ましになった」。続けて「国際

的に拘束力ある法的枠組みが誕生す

ることは、核兵器時代を終わらせる最

も効果的な道である。核保有国や「核

抑止力」論を信じる国は私たちの努力

を今後も阻もうとするでしょう。だか

らこそ市民社会のみなさんの助けが

必要なのです」と発言されましたが、全体の会議の流れでもありました。

主催者挨拶でも

「核保有国の抵抗にも関わらず、核兵器の全面禁止条約締結を求める流れは後戻りできない、安倍政権の戦争する国づくりは滑稽な時代錯誤だ」と述べられました。

坪井直日本被団協代表委員は

「私は今年、九〇歳ですが命ある限りみなさんと一緒に頑張ります」と発言、被爆者の平均年齢は八〇歳を超え、いつまでもこんな思いをさせてはいけないと痛感しました。

森瀧春子核廃絶をめざすヒロシマの

会共同代表は

被爆七〇年にあたり改めて、人類が核を利用する限り、人類は核によって否定される。核と人間は共存できないと連帯の思いをこめて話されました。

韓国参与連帯イ・ホテさんは

「韓国政府も日本政府も『核抑止力』に依存する軍事戦略を選び核の無い世界への障害物になっている。北朝鮮の核兵器は、北東アジアの二重基準を作り上げたジレンマである。

日本の平和憲法は、ともに適用するなら、東アジアと太平洋に平和をもたらす一番の強い手段であり砦である。平和憲法は日本国民の国際社会へ

の約束であり安全装置である。安倍政権は『戦後の時代を克服』すると主張しているが、真の克服は歴史を忘れることではない、不幸な歴史を認め克服することである」と報告。

核廃絶と戦争法案

広島市長も長崎市長も被爆者の方たちも海外からの代表も核廃絶と戦争法案反対運動は同根と見ており、強い批判と怒りを安倍晋三総理と内閣に向けています。

俳優の宝田明さんは世界大会の会場で旧満州の生活体験、映画ゴジラの制作意図と裏話の後、「今、夜も寝られないで考え悩んでいるのは、安倍さんでないでしょうか。安倍さんに申し上げます。もう白旗を上げなさい」と語られると大きな拍手が沸き起こりました。

戦争法案と非核平和自治体宣言

戦争法案と言われている悪法が今、国会で審議され、大きなブーイングが国民各層から国民世論として湧きあがっています。

石川県では全自治体が非核平和自治体宣言をしています。県内市・町の自治体宣言を読み返してみますと到底戦争法案には賛成できず、「反対し廃案」を求めることが当然な宣言であ

ります。各市・町の各党・派議員のみなさんは「わが町・わが市」の立派な非核平和自治体宣言に立脚し実践へ向けて、今こそ力を発揮していただきたい。私たちも自治体交渉の原点に位置付けて運動を進めて行きます。

原爆慰霊碑に献花し犠牲者を追悼

五日早朝、非核の政府を求める会は野口邦和常任世話人、平山武久世話人、斉藤俊一事務室長、広島会、京都の会、石川の会、日本宗教者平和協議会・森修寛事務局長の方々と一緒に献花し追悼しました。（事務局次長）

原水爆禁止世界大会・広島 参加報告

原爆投下七〇年後の広島で

核兵器と平和に向き合う

高校生 藤田元春

一九四五年八月六日午前八時一五分、この日、広島に人類史上初の原子爆弾が投下されました。人類が生み出した最も破壊力のある大量殺戮兵器、たった一つの爆弾で一五万人もの人々がなくなりました。その原爆投下の七〇年後の今年、私は初めて広島を訪れました。

戦時中、中国地方で最も栄えていた都市・広島。原爆が投下され、壊滅的な被害を受けた広島は脅威的な復興

で現在も中国地方で最も大きい都市になりました。その発展ぶりには驚かされました。街の中、個人的に目に映ったのは広島カープのポスターやグッズ、いかに広島カープというプロ野球球団が愛されているのかがよくわかりました。しかし、今回広島の地を訪れたのはカープでも広島観光でもなく、世界規模で核兵器、平和について考える原水爆禁止世界大会のためには被爆地広島を訪れました。

世界から核兵器を無くし、平和で安全な世界を、そんな人々の願いが一同に集うこの大会に私は参加しました。私は当初、「世界大会といっても」と少し軽視しているところもありましたが、会場に入った瞬間、その考えが吹き飛ばされました。

世界の人々、日本の人々が核兵器を無くそう、平和な世界を。真剣に核兵器と平和について向き合わせてくれる素晴らしい大会はとても貴重で私自身平和についてよく考えさせられる大会となりました。

今日、日本では安保法制について大きな議論となっています。唯一の被爆国である日本ができること、それは平和を願い追及していくことに尽きると思います。

被爆者の言葉に耳を傾け、共に平和

について考える。それが被爆国である日本、そして日本人の使命だと思えます。戦後七十年の節目に今一度、平和とは一体なんなのかということ、私たちは考えなければならぬと思います。

原水爆禁止世界大会・長崎 参加報告

自分にもできることがあると 背中を押された気持ち

村田美恵子

八月七日から九日、長崎市で開催された原水禁二〇一五年世界大会長崎大会へ参加させていただきました。三日間で全国から述べ五〇〇〇〇人を超す参加者が長崎に集いました。

初日の開会総会は長崎市長の挨拶



平和公園にはたくさんの方が訪れていました。

筆者は右端の人

をはじめ、被爆者による訴えや沖縄名護市長のメッセージ、非核平和を目指す世界各国代表者からの決意表明がありました。核兵器廃絶への決意を改めて確認した開会総会となりました。二日目のテーマ別集会は「憲法をいかに、非核平和の日本を」に参加させていただきます。はじめに「被爆者として語り伝えたいこと」というテーマで被爆者体験を聞きました。原子爆弾投下当時の生々しい情景が頭の中で浮かび、正直耳をふさぎたくなる場面もありました。原子爆弾の恐ろしさを知り、核兵器の非人道性を改めて感じました。被爆者の方の言葉は一つ一つが胸に刺さり、途中涙がこみ上げてきました。その他集会で、NPT再検討会議報告、核兵器廃絶にむけた世界と日本の取組報告・意見発表がありました。

世界の現状について学習になりましたし、特に安倍政権が強行しようとしている戦争法案について、学生をはじめ若者から母親世代、戦争体験をされた世代の方々まで幅広い世代からの力強い報告があり、行動の波が世代を超えて大きくなっていることを実感しました。

また、同世代の青年の報告を聞いて自分にももつとできることがあると

背中を押された気持ちがありました。集会后、原爆資料館と平和記念公園へ行きました。どちらも初めてでしたが、原爆被害の大きさと核兵器の恐ろしさを肌で感じました。あまりの衝撃に写真や被害物の映像が頭から離れません。

三日間の世界大会への参加を終えて、戦争は、核爆弾の使用は絶対に平和とは相反するものだということ、改めて確信したし、絶対に繰り返させないという思いがいつそう強いものとなりました。

長崎で感じたことを胸に今後もしっかりそう安保法案廃案、平和行動に取り組んでいきたいと思えます。

(城北病院 医療福祉相談室)

原水爆禁止世界大会 募金のお礼と報告

原水爆禁止世界大会に代表派遣の募金をお願いしたところ、一七人様から四万二千五百円をいただきました。

心よりお礼を申し上げ、ご報告をいたします。

非核の政府を求める石川の会
常任世話人会

◇講演要録◇

地方自治の危機と再生

— 沖縄と憲法問題から考える

講師 宮本憲一

大阪市立大学名誉教授、
元滋賀大学学長

1、戦後最大の政治危機

私は暑い夏を迎えますと七〇年前の広島のことを思い出します。当時私は海軍兵学校の七八期生でありました。敗戦により茫然自失という状態で、復員列車に乗り八月二四日に広島に着いたわけでありました。死体を焼く何とも言えないにおいと、広島市の残骸を見たときに現代の戦争というのは軍人が戦うのではなくて全ての都市、全ての住民を犠牲にする。そういう性格を持っているものと痛感いたしました。戦争をやめたほうがよい、平和でなければならぬというのが広島を見たときの最初の感想でありました。

今回安倍内閣が、国民多数が反対し

ているにもかかわらず安保法制を強引に衆議院で可決したということは許せないのではありません。私たちも六一名の学者が集まり、「安保関連法制に反対する学者の会」をつくり、約一万名の研究者の賛同を得ました。この安保法制は明らかに違憲です。つまり集団的自衛権というのは、憲法九条に反しています。彼らは中国を対象にして安保体制が極めて危険な状況になったというが、それは外交で解決すべきです。対抗するための戦略を増強すると言っていますが、今日本の財政はギリシャ以上に危険な状態にあります。きょうは地方自治が侵害されている問題について安保と地方自治の関係からお話をさせていただきます。それから地方自治とは何か、地方自治の本旨の問題、そして戦後の地方自治の歴史的な役割、最後に今後について述べてみたいと思います。

2、安全保障と地方自治

— 辺野古基地問題

辺野古の新基地問題について、政府は安全保障は国の専管事項だと言っています。しかし、憲法では地方自治を規定しており、住民の生命、健康、生活環境の保全というのは自治体の基本的任務であります。しかも戦前と

違い、都道府県は独立した法人です。戦後の地方自治制のもとで都道府県の知事は、住民が選挙をするわけで、住民の声を聞いて行政をするのであり、その意味では知事と内閣総理大臣は同格であります。

沖縄の状態は、戦争体制に入らなくても日常的に基地の存在のために生活上の安全が脅かされており、普天間基地のように占領下で住民、自治体の同意なしに銃剣とブルドーザーで基地はつくられたわけでありました。しかし、独立国の憲法体制のもとでは、住民と自治体の同意なしに基地はつくれないはずで、基地の建設についての工事方法やあるいはそもそも沖縄のある地域に基地をつくっていいかどうかについては、本来住民と自治体の同意なしにつくれないはずで、基地の建設や工事については、自治体と国は対等であって、国は都道府県と協議をしてその了解をとらなければならないはずであります。

今回の辺野古の新基地についても公有水面の埋め立てについては、知事に許可権があります。埋め立てのための許可の条件の中には、環境の事前評価というものが最も重要な意味を持ちます。これは日本の法律の中では非常に重要なんですが、開発の許可権と

いうのはこの公有水面については知事が持っている、自治体を持っている。あの地域は沖縄の中でも一番自然に恵まれた地域の一つであります。ジュゴンなどの絶滅危惧種が周辺で餌を食べて多数生息する世界遺産の候補地であり、このアセスメントの結果が重要なのであります。

翁長知事は、もともと自民党の沖縄の幹事長だった人ではありますが、この前の仲井真知事の埋め立て許可には疑義があると第三者委員会をつくって埋め立てを許可した行政に瑕疵がなかったかどうかを調べさせ、行政上瑕疵があるという結論を出したようです。この第三者委員会の結論は、この地域の景観や生態系が破壊される。特に環境影響評価をやったわけで、それに大きな疑義があり、不可逆的な損失を招くと。予防の原則からいえば工事は中止すべきであるという内容のようです。

そして同時にこれは自然保護の問題だけでなく、沖縄の人たちが今まで基地が存在することによって受けてきた人権侵害をこれ以上繰り返さないという点では、この問題は非常に重要であり、地方自治の侵害があるかどうか、つまり日本の戦後の地方自治の命運を問う課題であると思っていま

す。
首相と知事はこの問題については対等であり、私はそういう意味ではこれが政府の専管事項として押し切られるということになりますと地方自治の破壊になる、いわば戦後の地方自治の成否を問う問題になると思いま

3、戦後の地方自治の基本的性格

戦後の憲法は第八章で地方自治を規定しています。その第九二条には地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて法律でこれを定めるとしてあります。この重要な地方自治の本旨とは何を指しているのか。

これまで日本の憲法学者の多くが民主的中央集権制、すなわち中央政府が民主的であれば民主主義が確立するのであり、地方自治は民主主義の基盤であると考えていかなかった。つまり国の承認によって地方自治の権限が決まるのだという承認説、あるいは地方自治というのは国家の存在を呈した相対的なもので、憲法によって制度保証をしたという制度保証説だ。つまり自立した概念でないというのが通説になっていました。

しかしそれは新憲法が成立後の日

本の地方自治の発展の中で、地方自治こそ民主主義の基本である。これは戦後の地方自治運動やあるいは自治体の歴史の中で確立していったことではないかと思いますが、私は地方自治は住民自治を基礎として確立すると考えています。

民主主義というものは人々の世論や運動というものがあつて、はじめてこの地方自治というものが確立するのであつて、制度だけだと「ゴムまりの皮」みたいなものです。そういう意味では、充実した地方自治が実際に実現するためには、住民の民主主義的な世論と運動というものが不可欠だと思ふのであります。

4、歴史は未来の道標

—革新自治体と公害裁判

私は戦後の日本の高度成長と公害の歴史を調べて昨年出版した『戦後日本公害史論』で明確にわかったことがあります。それは公害という社会的災害というのは、原因が非常に複雑であり、利害も非常に複雑であります。しかしその原因というものを突き詰めていくとこれは明らかに企業と政府の政策の失敗なのであります。それを明らかにして解決する方法は二つあります。

5、変革の潮目と新しい主体と方法

法
当時は社共両党と総評その他労働運動が大変強い力を持っていました。今は、戦前や高度成長時期ほど自治体労働者の力はありません。労働組合が分裂をしており、社会民主主義政党も大変弱い。そういう意味では、かつてのような社共両党を背景としながらその労働運動と、さらに市民運動とが加わって問題を解決していくという、その路線をそのままというわけにいかなくなっている。ただ先ほど言った三島、沼津の場合から始まる市民運動の流れを検討してみますと、成功した当時の運動というのは、必ずある保守的な層を巻き込んでいくわけです。

保守には二つの流れがある

—政府依存型と内発型

私はその保守の中に二通りあると思ふのです。これは金沢にいた経験からですが、保守の中には二つの流れがあります。いわゆる伝統的な保守というのは草の根保守主義と私は言っていたのですが、政府の補助金や政府の政策に依存して地域の発展を考えるという開発を外の力で進めたいと考えている層であります。もう一つは、ゆっくりとした改革を進めていき

いという保守なのです。つまり伝統的な文化、伝統的な技術、伝統的な科学というものを土台にしながらその地域の資源を利用してゆつくりとした改革を進めていきたいという層であります。

私は金沢というのは保守の牙城だと思えますが、同時にここで私は内発的發展という論理を学びました。それはそういうゆつくりとした改革というのを考えているわけでありまして、そのまちを愛し、そのまちの文化や伝統を保持しながら、しかしその中で新しい技術の開発を進めていくということでもあります。そういう保守の中には政府依存型と、それではない内発型と二つの層があると思うんです。最近の「オール沖縄」とか「オール大阪」というものは、これはその地域が危機に陥ったときに保守的な層を加えたその地域を發展させよう、その地域を守ろうという運動であり、今言いましたような本場に郷土を愛し、郷土の伝統、文化というものを保持しながらゆつくりと開発を進めていこうと考えて、必ずしも中央政府の意志に従わない、そういう保守的な階層というものをどう味方につけていくのかは、これからの自治体改革運動のねらいではないかと思っております。

そういう意味で私は「オール沖縄」、「オール大阪」というものが、果たして新しい政治のあり方になるかどうか、まだ未知数であります。少なくとも今この安全保障体制について反対をしている層の中にはいわゆる革新勢力でない、健全な保守勢力があるわけでありまして、その人たちが本当に一緒に行動できるように学習を進め、こういう自治体学校に出ていただいて同調するような雰囲気をつくっていくかなければならないと思います。そこに次の地方自治を守る主体を形成していく努力というものが私たちに求められているのではないかと、いうことを申し上げたいわけであります。

平和こそ金沢の都市格の基本

金沢というのは都市格の高い街として知られています。日本で恐らく京都と並んで、金沢というのは都市格の高い街だと思えますが、実はその都市格がなぜ高いかと言えば、戦災にあっていないからです。平和こそ金沢の価値なのであり、平和こそ金沢の都市格の基本であって、この街が平和と民主主義を発信する街でなければならぬと思っております。これからの日本の前途というのは

決して楽な道ではありませんが、地方自治、三権の分立を保持する憲法体制を維持して戦っていくことができれば、私は戦争へ向かう道を防ぐことは可能であると確信しております。皆さん方の今後の学習、健闘をお願いいたします。

◎この文章は七月二五日、金沢市内で開かれた第五七回自治体学校の記念講演を(埼玉)会議録センターが文字化した記録に基づき、非核・いしかわ編集部が要約したものです。

非核石川の会 リレーエッセイ

梅原司平と被爆ピアノ

コンサートを終えて

志田弘子

八月二日(日)志賀町文化大ホールでの「梅原司平と被爆ピアノ」のコンサート「能登」を無事に終えることができました。

「交通の便の悪い小さなこの町で、出来るだろうか？」という不安はいっぱいでしたが、子ども達になにかしたい・・・原発のあるこの町でこそ・・・という揺るがぬ思いもまたありまし



コンサートを終えて、梅原司平さん(前列左から3人目)を囲んで記念撮影

た。そして私たちだけでは叶わなかったことを、金沢から県内外から、そして地元の人たちの多くの応援が支えてくれていました。

「いのちと平和」について、様々な立場の人たちが集まってもらいたいと思ったこともあり、原発に関してはつきりと反対ということは抑えていたのですが、被爆ピアノの存在、梅原さんのトークも福島、広島にずーっとふれていて、会場にしっかりと伝わっている気配が感じられ続け、終わった後も「今まで地域で言えなかったとか、知らなかったことを聞けた」「歌とトークでいっぱい伝わった」「戦争のことや、今おかしすぎるね」と関心がなかったという人たちからもいろん

な声が入ってきて、出来てよかったー”とホッとしています。

そして、何か変わってゆかなければという思いや今の状況が、今まで口をつむぐことしかできなかった地元でも口に出さなければ・・・と、みんなが、改めて感じた会だったような気がします。

「私たちは、いのちを繋ぎたい」

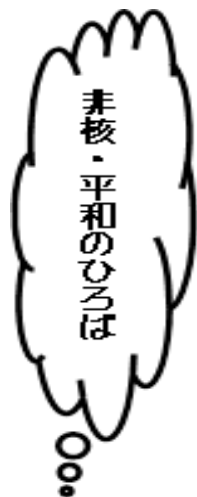
「私たちはかけがえのないものたちを苦しめたくはない」

小さな過疎の町で、選択肢の少ないことは身にしみながらも、投げ出さず、垣根を越えて考え続けねば・・・。そのことが私たちの贈れる、明日への希望だと思っております。

舞台には能登と福島とに通ずる青いいのちの海をバックに作りました。会場では手作り地域を大切に作る小さなお店も一五店舗あまり、志賀町のスイカも完売でした。

入りきれないほどに来てくださった人たちのおかげで、収益もあり、福島のおんなたち”にも、送れそうです。昔はしとやかだった(？)、今はしたたかな婆に変身した地元のおんなたちが少しだけ踏み出せた嬉しかったご報告です。

(のと同じよネット)



白山市が「長崎 戦争・原爆被災展」を開催

七月一四日～二〇日、JR松任駅近くの市民工房「うるわし」を会場に、標記の展覧会が開催されました。今年、白山市が平和首長会議に参加したのを契機に、戦後七〇年を記念して原爆被災展を開催したものです。

県内では初めてということですが、長崎原爆資料館から被災資料を借り、パネルや実際の資料、遺物などを展示し、ビデオコーナーも設けて視覚でも訴えられるように設定されています。爆心地から一・五kmで原爆がさく裂した一一時二分を指して止まった懐中時計、二〇冊近くの関連絵本なども展示されていました。尚、同会場で八月六日～一〇日、「原爆と人間展」とミニ講演会を白山市の市民実行委員会が開催しました。

(I)

詩人会議かなざわ「独標」より

東日本大震災

藤村 和昌

母は瓦礫に挟まれて動けない娘は母を助けようとするがひとりの力ではどうすることもできない

母は「ここに居て」と言ったがそこへ押し寄せる津波しかたなく母から別れ泳いで去った娘

車に乗せてもらって避難する兄弟怯える弟の手を握って励ます兄

その時 車の中にまで水が入って来た津波に巻き込まれた二人 どうして弟の手を離してしまったのかと悔む兄

あの時 息子は父が避難してくれたものと思っていた

しかし震災後、どこを探し歩いても父を見つけないことができなかった

ところが後日 誰かが撮ったビデオ映像の中に 街に流れ込む水に戸惑いながら歩く父の姿を 偶然 見つけた息子

数十年いや数百年に一度の大地震に偶然居合わせてしまった東北の皆さんに起きたこと

話してくれてありがとうと言いたい私はしっかりと見つめてその事を理解しよう

私は彼らを慰める言葉を見つけないとができないが 彼らの痛みや悲しみが歳月を経ていつか平癒することを願う

心のいたでに寄り添うとしても簡単ではないが この日に起きたことを決して忘れないでおこう

この出来事を 子どもたちが大きくなる 未来に生かさなければならぬ

不運にも突然 旅立たれた皆様には 遠く離れた処から ただ祈るしかありません

おやすみなさい おやすみなさい 夕食の手伝いをしてくれた娘のこと 兄弟で魚釣りを楽しんだこと

父のことを心配りしていた息子のことなど たくさんの夢を見ながら眠ってください さい 青い海よ 静かにして 緑の野山を駆けめぐる子どもたちの



(1977年7月7日 中田喜重撮影)

石川県原爆被災者友の会 中田喜重
八月十日頃
長崎市八千代町附近
ガス会社付近で会社の仲間の死
体を焼く。川には馬が焼けて死んで
いた。橋には人の死体がいつぱいこ
ろがっていた。

「被爆者が描いた体験画展」⑪

歓声を
遠くに聞きながら眠ってください
*東日本大震災から四年が過ぎた
三月十一日、大切な家族を失った
人たちについての報道より

◎本号・花鳥風月にも触れたが、いま
参議院では、多国籍企業の海外活動を
支援することがわが国の存立に必須
であるとして、従属国として他国につ
き従い、海外での覇権の拡大を狙う
「集団的自衛権」を持ち出して、国是
でもある憲法九条の不戦の誓いを、内
閣の解釈をもって換骨奪胎しようと
策している。この危険な「安保法制」
の廃案は、圧倒的多数の国民の要請で
あり津々浦々から声をあげてゆきた
い。(一)

《編集室より》



絵手紙コーナー
金沢医療生協絵手紙班
矢敷 節

《非核平和・行事予定》

Table with columns: 月, 日, 曜, 時, 内容, 場所. It lists various events such as '原水爆禁止2015年世界大会報告会' and '2015年日本平和大会in富士山'.

*毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口
祝日は休日としています